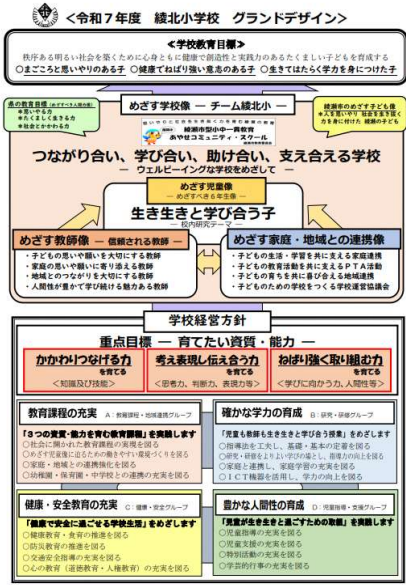


令和7年度 綾瀬市立綾北小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	秩序ある明るい社会を築くために、心身ともに健康で、創造性と実践力のあるたくましい子どもを育成する。 ○まごころと思いやりのある子 ○健康でねばり強い意志のある子 ○生きてはたらく学力を身につけた子	
学校経営方針 (ランドデザイン)	 <p>この図表は、学校経営方針のランドデザインを示しています。中心には「学校経営方針」があり、その下に「重点目標」が設定されています。重点目標は「育てたい資質・能力」の観点から、かかわりつなげる力、考え表現し伝え合う力、ねばり強く取り組む力の3つに分類されています。また、「教育課程の充実」、「健康・安全教育の充実」、「豊かな学力の育成」、「豊かな人間性の育成」の4つの柱が示されています。各柱には具体的な取り組みが記載されています。例えば、「教育課程の充実」には「3つの資質・能力を育む教育課程」を構築し、社会に開かれた教育課程の充実を図る、家庭・地域との連携強化を図る、授業・研修・中間・学年間の連携強化を図る、といった取り組みが挙げられています。</p>	
今年度の重点目標	育てたい資質・能力 ○かかわりつなげる力を育てる ○考え表現し伝え合う力を育てる ○ねばり強く取り組む力を育てる	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「生きてはたらく学力を身につけた子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	昨年度の結果より、「進んで勉強した」と回答している児童が7%増加しました。また、「意欲的に取り組んだ」と回答された保護者も12%ほど増加しました。「授業の話を楽しみ話してくれる」「自主学習に自分から取り組んだ」など、学習に主体的に取り組む、学ぶことへの喜びを感じている様子が見受けられます。年々、学習への意欲が増加傾向にあるため、今後も「学ぶ楽しさ」を味わわせることができるように研究してまいります。そして、「あまり取り組めていない」と感じている児童にとって、少しでも楽しく、学びを実感してもらえるような授業づくりを目指し、研究を進めていきたいと思います。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	めあてをもって頑張ったと肯定的な回答をしている児童が9割を占めています。めあてをもって練習を積み重ね、それを、保護者・地域の方や異学年の児童に発表する機会をもつことで、児童にとって満足感や達成感を得ることができたと捉えています。また、「わが子は意欲的に取り組んでいる」と感じた保護者については9割を超えています。家庭でも行事の練習をする姿が見られた、行事に対して肯定的な会話があったというご意見もあり、児童を通して学校の様子が伝わっていると思われます。しかし、少数ではありますが、めあてをもってがんばれなかったと感じている児童もいることから、全児童が満足感や達成感を得られるように、よりよい取り組み方を模索し、さらなる改善について今後も検討を重ねてまいります。
3 児童・生徒指導	学校は、「まごころと思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	9割の児童が「友達と仲良くできた」と答えています。しかし、取組の中で述べた通り、言葉遣いやルール順守に課題があるため、友達の間で気持ちは考え、仲間づくりを行う、という『思いやり』の部分においては、これらも学級や学年単位で計画的に指導・支援していく必要があると考えています。引き続き、教職員自身が児童との関わりを大切に、思いやりをもって児童に寄り添い、友達同士の関わり合いで日々必要な支援や助言を心掛け、友達と仲良くなる仕掛けづくりを、組織的に実践してまいります。ご家庭でも言葉遣いやルール順守について声掛けていただき、同じ方向性で子どもたちを育てていきたいと考えていますので、家庭教育からのバックアップのご協力をよろしくお願いいたします。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	学校は、どの状況においても、児童にとって安心して楽しく過ごせる場所でありたいと考えています。そのために、教職員が友だちと関わる活動を積極的に取り入れるなど工夫を重ねて、学級・学年間を中心によりよい人間関係づくりに取り組んできました。今年度、約9割の児童は満足しているという結果でした。よりよい学級集団づくりを基本として、学年・学校全体でさらにきめ細かい支援・相談体制を作り、多くの児童が満足できるようにしていきます。そして、児童が相互に関わり合いができる機会や自分の力を発揮できる機会をさらに増やして社会性の基礎を育むよう取り組んでまいります。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	「学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」という設問に対して、「そう思う・ややそう思う」と答えた保護者が8割を超え、昨年度より向上しました。ただ、まだ満足いただける結果ではありません。子どもたちの声をしっかり受け止め、早期発見・再発防止に努めてまいります。「あまり思わない・そう思わない」と感じた保護者の方は、是非、そのままにせず、教育相談コーディネーターかスクールカウンセラーへ早急にご相談いただきたいと思います。学校では、今後も学級でのよりよい人間関係づくりを基本に、児童が相談しやすい雰囲気作りを行い、いじめの未然防止・早期発見に一層努めてまいります。また、学校での取組に対してご理解・ご協力が得られるよう、保護者に向けて積極的に発信してまいります。教職員は、研修を通して、自己の人権感覚の向上といじめ防止への意識のさらなる向上に努めてまいります。
6 保健管理	学校は「健康でねばり強い意志のある子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	今年度も、健康で安全な生活について、日々の生活や学習活動の実態に応じてその都度共通理解し、全校児童に対して指導を積み重ねてきました。これにより、児童の意識を継続的に高め、手洗いの励行や、早寝早起き、歯磨き、好き嫌いをなく食べること、適度な運動が大切であること等を意識化、習慣化することができてきました。しかし、高学年児童の中には、休み時間の外遊びに消極的な様子が見られる場面があり、今年度は休み時間に体育館の開放を行いました。その結果、休み時間に運動をする高学年児童が増えました。今後も引き続き計画的に指導を行う中で、体を動かして遊ぶことや運動の大切さを伝えるとともに、運動する場の確保に努めてまいります。

7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	「安全」は学校にとって最重要課題の一つであり、施設の点検には全職員協力のもと、毎月細心の注意を払って実施しています。必要な修理箇所や改善点を適切に挙げ、その都度校務作業員や教育委員会に修理・点検を依頼、順次対策を行っています。安全教育については、年間を通じて各学年児童の実態に応じて計画的に指導を行いました。今後も地域の登下校ボランティア「見守り隊」の方や、PTA校外指導委員の方に協力いただき、事故、けがのない安全・安心な学校をめざしていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	引き続き全職員で情報を共有し、児童の実態を把握して、児童理解に努めています。そして、一人ひとりのニーズに合った支援体制を充実させ、支援や相談を積極的に行っていきます。また、保護者の要望に応じて、専門機関の相談員などとも連携を図っていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校教育目標を具現化するために、グランドデザインに掲げためざす児童像「生き生きと学び合う子」の育成に向けて、各行事や教育活動全体を通して、総括教諭を中心として全職員でグループごとに「児童の実態把握・計画・実践・評価・改善」を行っています。そして、その内容を共通理解を図ることで運営組織の充実を図ります。今後もよりよい学校運営のために、担当総括教諭が中心となり、各グループが連携しながら、活発で効率的な運営が機能するよう努めています。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための校内研究の取組に力を入れている。	国語科の研究を通して、「学ぶ楽しさを感じさせられるような指導」だけでなく、子ども達との「信頼しあえる関係」をより構築していけるように研究を進めていきます。外部講師の助言、推進校の視察など、教師も学び続けていく集団であり続けたいと思います。また、職員同士のコミュニケーションも図り、互いに高められるような環境が作れるように引き続き努めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	「そう思う・ややそう思う」と回答した保護者は、昨年度より向上し、9割に達しました。「担任が我が子のことを理解してくれている」と感じている方が多くいらっしゃいました。引き続き、真摯に学級経営の検証や分析を行い、今後も児童の実態把握にさらに努めてまいります。 教職員による情報交換や児童のスクールアンケートなどで、児童の実態や課題を細かく把握し、担任や学年、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーがチームで対応し、支援・指導を行い共通理解を図ります。さらに、児童一人ひとりの対話を大切に児童同士のコミュニケーションが円滑に進むような取組等も検討し推進していきます。 「あまり思わない・そう思わない」と答えている保護者の中には、「行事の縮小が児童の成長の妨げになるのではないか」という意見がありました。一方で、行事が負担となり、学校に足が向かなくなる児童が増加している現状もあります。「すべての児童に」という難しさはありますが真摯に受け止め、ご理解をいただけるよう取り組んでまいります。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	学校からの便りで「学校の取り組みが伝わっている」と回答した保護者の割合は、9割5分を超えました。あわせて、学校便りがカラーになり見やすいというご意見や、取組や行事の予定と活動の様子が分かってよいというご意見もいただきました。紙面の都合上、全ての活動の詳細をお知らせすることは難しいですが、PTAの協力を得ながら、広報誌などで今後も様々な取組や活動の様子をお知らせできるよう努めていきます。今後は、文書の配付に加え、ホームページや情報配信システムを活用し、必要な情報や文書が確実に保護者の手元へ届くように、さらに利便性を高めたいと考えています。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いの荒い児童が多くなっている。メディアの影響もあるが、何よりも家庭での大人の言葉遣いの影響を受けているのではないかと。⇒普段の学校生活の中でも言葉を大切にしよう指導を重ねるとともに、言葉づかいについては全校で思いやりのある言葉遣いができるような指導を人権教育や道徳教育の場を生かしながら指導を重ねていく。 昔なら悪ふざけ程度の認識であったものが、いじめとして扱われている。いじめの定義が曖昧になっているように感じる。本当に傷ついている子どものことを見極めてケアをしっかりとしてほしい。⇒いじめについては、引き続き学校でもアンテナを高くして、児童の様子に目を配り、指導と支援を重ねていく。いじめの定義については、教職員だけでなく、児童や保護者にもしっかりと周知していく。 校舎の老朽化が進んでいるので校舎の建て替えができるとうい。⇒引き続き、市に要望を伝えていく。 通学路の点検を日常的に行うことは学校としては難しいので、自治会の協力を仰げるようにしてはどうか。⇒各自治会に検討を依頼する。 学校評価アンケートを取るにあたって、外国籍家庭への対応（翻訳等）ができるとうもう少し回答率も上がるのではないかと。⇒個別面談などの機会を活用し、学校への意見を伺っていく。 綾北小学校の教職員がとてものびのびしているところが素晴らしい。 		